

O.S.P



VOL. 10
FEBRUARY

[OSPREY]

S

[SPIRITUAL]

P

[PERFORMER]

無料
ご自由にお取りください



Keep it on the down low!!
—並木敏成が語る
あのルアーの真実—
~HPシャッドテール2.5in & 3.1in~

The Kotaro's Maxims
ワーミングの極意を伝授!!

O.S.P's GO-GETTER!!
O.S.Pが誇る凄腕プロスタッフが
ルアーの使いこなし術を明かす!!
三村和弘 / ハイピッチャー

**O.S.P 動画
随時更新!!**

JOURNAL

O.S.Pが誇る三人のスペシャリストが“旬”を説く!
SIX EYES

富村貴明 / 納谷宏康 / 松村 寛

待望の
ヘビーウェイト



ハイピッチャー
1ozが追加!!



ワーミングの
極意を伝授!!

THE KOTARO'S

川村光太郎がはじめて世に放ったドライブシリーズの原点、ドライブクロー。これまでのクロー系ワームにとって代わり、もはや代名詞的存在となったこのアイテムは現在2インチ、3インチ、4インチ、そして5インチと4サイズをラインナップする。今回は5インチを中心に、テキサスリグでの使い方について解説していこう。

川村光太郎の解説動画も合わせてチェック!!

<https://youtu.be/tlmU2per9Mk>



カバー撃ちのアプローチはここに注意

ドライブクロー5インチはボリュームがあるため、比較的、その存在を気づかせやすいアイテムではあるが、込み入ったカバーの中では視界が悪く、すぐ隣にバスがいても気づかないことも。「ここぞというところでは、細かく刻んでいくことも大事です」と光太郎。特徴的なツメが大きく水をかき回すことで、バスの側線に訴えるのだ。また着水音にも気を配りたい。大きな音で着水させると、バスを散らしてしまいかねないが、逆にカエルが水に飛び込むような甘い音は、バスをバイトに導くトリガーになることも。「バスが振り向く程度の甘い着水音なら、誘いにもなるのでベストです」。



水深が浅いスポットほど、着水音に注意したい。「ぼちゃっ」という甘い音であればバスに気づかせることができ、かつバイトのトリガーにもなる。また込み入ったカバーエリアでは、細かく刻むキャストによってバスに出会う確率を上げる



一番の食わせどころはフォール〜着底直後

テキサスリグを打ち込み、フォール中ももちろんバイトに備える必要があるのだが、光太郎の経験上、最も食う瞬間はフォールから着底直後。次にラインを張った瞬間に重みが乗っていると、食っている可能性は高い。そう考えるとボトムでしつこく誘うより、入れ直して誘うほうが効率的だといえる。ただし冬のようにバスの活性が低く、じっくり誘って焦らさないと思わないようなときは別。着底直後に簡単に食うような活性のときは、手数で勝負することを心掛けよう。



テキサスでのバイトの多くは、着底直後にあるという。したがってハイシーズンは1ヵ所で粘るような誘いよりも、打ち込む位置をスラして撃ち直したほうがバイト率は上がる



誘いについてももうひとつ話しをすると、水深が浅いスポットであれば、リフト&フォールで水面まで持ち上げてやるのも効果的。こうすることでバスがエサを水面まで追い込んだ状態を演出することができ、そこで食ってくる個体も多いという。また、例えば水面に広がるリリーパッドのようなカバーでは、落とすところの見極めも重要だ。闇雲に撃つのではなく、異なる植物が絡んでいたり、何かしらストラクチャーがあるなど、変化があるところを重点的に狙うことも忘れてはならない。



闇雲に撃っていても時間を無駄に浪費するだけ。異なる植物が混ざり合うスポットや、何かしらのストラクチャーが絡んでいるところなど、カバーを撃つときも変化に注視すること



水深が浅い場所では、水面までリフトして誘うことも。こうすることにより、バスがエサを水面に追い込んだ状態を演出できる。このタイミングで食う個体も、実は意外と多いという

水面に追い込んだ状態を演出する誘い



マットの王道はフロッグ、だがテキサスリグでも…

マットカバーを攻略する、となると真っ先に思い浮かぶのはフロッグだろう。しかし中空ボディゆえ軽く、マットに厚みがあると、その下に潜むバスに存在を気づかせることは困難。そこで出番になるのがテキサスリグだ。シンカーの重みでマットを押ししてくれるため、バスに存在を気づかせやすい。そこで追わせて、ポケットにフォールさせると「ゴン!」ということも珍しくない。「マットの上で出てもミスバイトしてしまうので、できれば藻穴(ポケット)で食わせられるように早めに引いてくること。そこで食わせただけがキヤッチ率は高いですね」



テキサスリグのシンカーがマットを押し下すため、その下に潜むバスに存在を気づかせることができる。食わせどころはポケット。マットの上でバイトしても、ミスバイトで終わることは想像に難くない

MAXIMS



クロー系ワームといえばこれ!
ドライブクローを使いこなせ!!

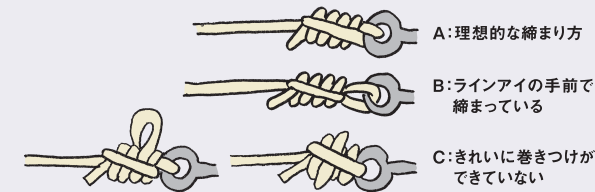


かなるときでもどこかのパーツが動き、バスを誘う」というコンセプトのもとで、開発がスタートしたドライブクロー。O.S.Pにおいて、川村光太郎がはじめて手掛けたソフトベイトであることは、もはや周知の事実。それまではフォールで誘うならこれ、ボトムではこれ、といくつかのクロー・ホッグ系ワームを使い分けていたが、それらメリッ



結び目が動かない締め込みがバラシを防ぐ。

これはテキサスリグに限ったことではないが、ラインをアイに結んで締め込むとき、ラインアイに到達する前に締まってしまうと結び目に遊びができてしまい、ラインブレイクにつながる。バイトを感じてアワセたとき、その遊び分が瞬間的に締まるため、ブレイクしてしまうのだ。強いタックルで力強くアワセるテキサスリグでは、特にこの現象が起きやすい。これを回避するためにも、ラインを巻いていくときは重ならずきれいな列になることを心掛け、締め込んだあとは結び目に遊びがないか確かめるようにしよう。ちなみに光太郎はユニットを愛用している。



ラインブレイクを防ぐために、まずはノットに気を付ける。ラインアイ部分でしっかり締め込むことを意識しよう。またカバー撃ちでは知らぬ間に、ラインに傷がついていることも。こまめなラインチェックも怠らないように!



クランクよりもスピナーよりもエサっぽく。

ドライブクローのスイミングは、クランクベイトやスピナーベイトでは食わない個体を食わせることができるテクニック。ハードベイトに食ってきにくいような、例えば晴天無風の条件下でも、口を使わせることができるメソッドである。「橋の下のような広いシェードでは、バスがどこにいるのかわからない。そんなときは横に引いて線で探る。ただ巻きでも各パーツがしっかり動くので、サーチ能力も高いです」。クランクベイトではキツイ、スピナーベイトだとやり次第で口を使わせる。そんなときに、よりエサっぽい泳ぎを見せるドライブクローのスイミングを試してみたい。

トをひとつに集約できれば、バスに見られるタイミングが減り、バイトを増産できる。そんな想いを具現化した。

ボディに備えられたパーツもただついていけばいいというのではなく、それぞれ異なるアクションを生む。例えばツメはロールしながらゆらゆらとスイングし、足はピリピリとした微細な動きを生む。ひげは倒れ込む際にふわっとしなる動きを見せ、それぞれが同時にアクションし、バスの本能を刺激する。ひと言で表現するならば、「これまでのクロー系とは誘う力が違う!」。そんな川村光太郎の自信作の、ポテンシャルを最大限に引き出す使い方をご紹介しよう。

オープンウォーターでの多彩なアクションにメモロ



ロッドストロークでワームを動かすスイミングや、リフト&カーブフォールなど、ドライブクローのパーツにしっかりと仕事をさせるアクションができれば、自ずとバイトを誘発してくれる



ヘビーカバーではシンカーストップバーをシンカーに密着させていた光太郎だが、倒れ込むときの自然なアクションを出したいときは、ストップバーを緩めて自由度を持たせている

橋脚などではロッドを立て気味にして、水面直下をただ巻きで使用する。イメージとしては、スピナーベイトを巻くような使い方。広いシェード内でバスをサーチするときなどは、スイミングが有効になる



↓
ウエイトの
使い分け



次にウエイト選びですが、冬から春は2mくらいまでなら3/8オンス。3mまでなら1/2オンス。それよりも深ければ5/8オンスとなりまる。そして間もなく発売予定の1オンスなら、もっと深い水深をよりゆっくりに引くことが可能になるので、今から楽しみでなりません。ブレード選びについてもよく質問されますが、よりアピールを望むならDWをチョイス。キャストや手返しを重視するならTWをおすすめしています。

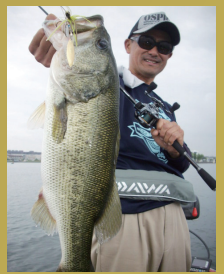


では、バカイチはハイピッチャーをどんなエリアで引いているのか。まずは琵琶湖なら、大きなワンドをひとつ頭に浮かべてください。大きなワンドのその両サイドにある大きな岬、そこからデカイバスが回遊して来たり、または居ついていたりにいる魚。その岬から、ワンドの奥まで続く明確なブレイクラインと、そこに繋がるウィードライン。それにプラス沈み物などがおもしろいですね。冬場のバスフィッシングはバスの活性が非常に低いのが常。そんな中でよりゆっくりルアーを動かしたい、でありながら、大きなエリアを探りたい。だからこそ、ハイピッチャーが定番になるのです。スローな中でもより効率よく探せるルアー、それがハイピッチャーなのです。

↓
ハイピッチャーを使う場所

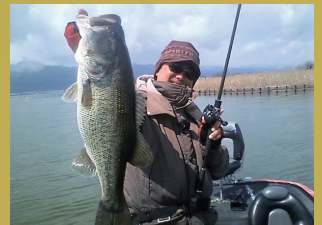
ハイピッチャーというルアーは1年中使えるスピナベで、ガイドに來られたゲストさんからも、よく使用方法を聞かれます。今回はこのタイミングなので、冬から春のシーズンの使用方法をお伝えしましょう。バカイチがよく言うのは「ヘビキヤロを引くようにゆっくりに引くこと。それはそのときどき、ウィードであったり、ハードボトムであったり、その他の沈み物をなめるように引いたり、またその上を通すように引いたりすることもある。ここで注意したいのが、ロッドとラインの角度。よく、ロッドとラインの角度を90度くらいにしながらいりーリングをするアングラーさんを見かけますが、バカイチはこの角度を一直線にしてりーリングしています。これは琵琶湖ではウィードエリアが多く、角度を持たせるとロッドでウィードを交わすことができないうためののです。

↓
冬から春の
基本的な使い方



ハイピッチャーでビッグを落とす方法とは？ それはバカイチ的にはやり切ること、これに尽きます。1日引いていれば風が出たり濁りが増してきたり、そして自分の精神が崩壊したりもします(笑)。でも、頭の中はシンプルに考えれば良いと思う。琵琶湖で自分が考える、思うビッグを1本、頭に浮かべてやり切る。それがデカバスを引っ張ってくる最大の秘訣だと思います。それに答えてくれるスピナベはやっぱり、ハイピッチャーやで〜!!

↓
ハイピッチャーでデカバスを獲る秘訣



O S P S
Go-Getter!!

ハイピッチャーの解説と言えはこの人。
“スピナベ馬鹿一代”の異名を持つ三村和弘が
シーズンを通して活躍の場がある
このルアーを徹底解説。
今回は冬から春に有効な使い方を伝授する!!

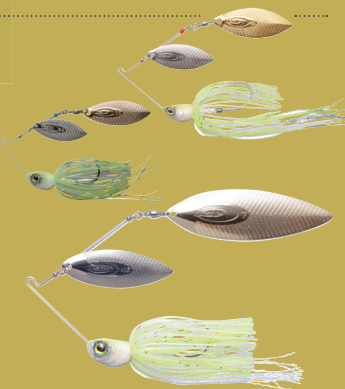
FILE 10

解説=三村和弘



→ ハイピッチャーとハイピッチャーMAX

これまでの解説で、ハイピッチャーはより苦手なしの万能タイプと考えていて、ハイピッチャーMAXは濁りや、アピール、ベイトの大きさ、そして狙うバスのデカさといった要素に基づいた現場判断で使い分けています。では「タイプは？」となりますが、台風直後の激濁りなどの中で最大級のアピールがほしいとき。もしくはボトムでのスローロールで、強波動を期待するときはタイプフーンの出番ですね。ここで言いたいのはこの3種を、必ずセットで持っておいてほしいということです。その理由は、絶対現場主義のあなたなら、すぐにおわかりですよね？



PRESENT!

O.S.P JOURNAL 創刊10号記念
特大プレゼント!!

応募方法_希望者はメールにて、件名「O.S.P JOURNAL
プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

- 1 このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- 2 このパンフレットの率直な感想
- 3 このパンフレットに求める情報
- 4 釣り歴とホームグラウンド
- 5 O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2016年2月29日(月)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

event@o-s-p.net

個人情報について_ご提供いただきました個人情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)

並木敏成のカラー理論+
潮回り入り
O.S.P 2016
カレンダー
(非売品)



もう手に入らない人気のバッグ
O.S.PヒップバッグモデルI

毎日更新! O.S.Pのすべてがわかる!!
O.S.P公式ホームページ

www.o-s-p.net

O.S.P Lurefishing Facebookページ
http://on.fb.me/1ivloty

並木敏成の知られざる素顔が明らかに...!
並木敏成オフィシャルサイト「THIS IS T.NAMIKI」
http://t-namiki.net/

並木敏成Official Site「THIS IS T.namiki」
更新情報 Facebookページ
http://on.fb.me/1iE8UiY

KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの秘密

並木敏成が語るあのルアーの真実と

ということ

で...

このパンフレットを手にした
あなただけが知ることができる
あのルアーの真実と、本当の使い方。

いろんな意味で「マルチ」に使える HPシャッドテールの基本性能

O.S.Pでは現在、2タイプのシャッドテールワームをリリースしている。まずはドライブシャッド。3.5インチ、4.5インチ、そして6インチの3サイズをラインナップし、スイムベイトの延長線上として考えられたもの。

これに対してHPシャッドテールは2.5インチと3.1インチの2サイズを展開しており、マルチに使うことができる。ちなみにこの「マルチ」という言葉はリグとの相性だけを指すのではなく、幅広いレンジや誘いのアクション、そしてさまざまなベイトフィッシュタイプということもこれに含まれる。ドライブシャッドは主に表層から中層を泳ぐベイトフィッシュであるのに対し、HPシャッドテールも同じく表〜中層のベイトフィッシュはもちろん、ときにボトムにいるハゼやエビ系を横すこともできるのだ。

またドライブシャッドはオフセットフックによるノーシンカーでの使用をメインに、表層のバジングや中層スイミング。そしてライトテキサスおよびキャロなどでもボトム付近を漂わせるようなリグから、ダウンショットやラバージグのトレーラーとしても活躍する。

中でも特筆すべきは、つけてきて食わないバスに対してのアプローチ。リトリブを止めたときの自発的なスーパーな動きは、これまでのスイムベイトタイプで獲れなかったバスをも獲れるようになった。

これに対してHPシャッドテールはコンパクトボディであるため、ドライブシャッドよりも強い波動を出すことでその存在を知らしめなくてはならない。そこでドライブシャッドはテールとボディのロールが中心になるのに対して、HPシャッドテールはテールで起きた震動がボディからヘッドまでを強烈に揺らす設計にしている。そしてその震えを幅広いスピードやシンカーのウエイトで可能になるようにもこだわっている。

またシェイキング時にテールが震えることも、お伝えしておかなくてはならない。このためにはテールを厚くしてある程度の重みを持たせるだけでなく、確実に震えるためのボディの柔らかさも必要になる。つまり引いてもよし、誘ってもよし。まさに「マルチ」に使えるというわけだ。

並木敏成が語る HPシャッドテールの使い方

HPシャッドテールは幅広いリグに対応するのだが、まずはノーシンカーのただ巻きについて解説しよう。

キモは使用するフック。ワイドゲイブのフックをセットすることで低重心化が図れ、泳ぎが安定するのだ。ちなみに2.5インチであればTNSオフセットの#2か#3。3.1インチであれば同フックの#1か1/0を推奨。ワーム単体の重さが2.5インチで1.8g、3.1インチで3.3gあり、これにフックの重さを加えると3.1インチで4g前後になるため、スピニングタックルにナイロン6lbやフロロ4lb前後のタックルから、フロロ6〜8lbラインのベイトフィネスタックルでも投げられてしまう。2.5インチに関しては4lb以下のライトラインか、PEの0.3〜0.4号にリーダーは同じくフロロの4.5lbナイロンおよ

び4lb以下のフロロにする
とロングキャストも可能に
なる。ややファットめのボ
ディと塩の入ったマテリア
ルによって、思いのほか飛
んでくれるのだ。このセッ
ティングで水面直下から中
層をただ巻きで使う。

ノーシンカーリグの裏ワザとして、テールの上下を逆にセットするという使い方もある。このセッティングではリトリブを止めたときに、軽くボディが震えながら、かつ水平姿勢を保ったままフォールする。もちろん、フックの重さやラインの太さなど、絶妙なセッティングが重要であることを覚えておいてほしい。

次はダウンショット。自分の中で最も使用頻度の高いリグで、3.1インチに関してはスピニングでもいいが、7〜14lbのフロロと組み合わせたベイトタックルにもマッチする。1.8〜3.5g程度のシンカーによるスローフォール気味のダウンショットはハイシーズン期に有効だが、低水温期は5〜10gの重めのシンカーによるリアクション的使い方もぜひ試してほしい。バスがボトムべったりのとき、通常は25cm以上のリーダーで対応するところを、5〜15cmぐらいに設定し、何度もボトムを叩くことがキモ。2.5インチはスピニング、



ベイトフィネスの両方で
使用可能だが、リアクシ
ョン的ダウンショットの
とき、シンカーの目安は
3.1インチは7gが基準に
なるのに対し、2.5インチ
は5gが中心になる。

そしてジグヘッドによる
スイミング。ノーシン
カーよりも一段下の中層を
守備範囲に、ディープでの
スイミングに加えてフリー
フォールやカーブフォール
で、オートマチックにバス
を誘ってくれる。オープン
フックポイントで掛かりも
よく、投げて巻くだけで
いいという点はビギナーに
もおすすめのリグである。
もうひとつ有効なリグと
して、ネコリグがある。他
のリグでは根掛かりして
しまうような場合に、想
像以上にスタックしない
という大きなメリットを
持っている(ボディ側面
の3つのドットのうち、
前2つがフックを掛ける
位置の目安となる)。こ
のとき、2.5インチは
0.9〜1.3gのシンカー
を基準に、軽いところ
では0.45gも使う。こ
のウエイトのスロー
フォールでも、テール
をしっかり振る。3.1
インチでは1.8〜2.2g
を基準に0.9gまで
対応。リアクション
ダウンショットのよう
に素早い動きに反応
がいいときは、例え
ば2.5インチに2.2g
のシンカーを入れた
リアクションネコリ
グも、ときに爆発
的な効果を発揮する。

すでにご存じの方も
多いかもしれないが、
2015年のバサー
オールスタークラ
シック2日目にウ
エイインした5匹
のバスのうち、1匹

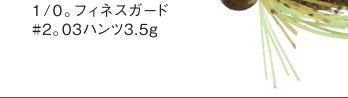
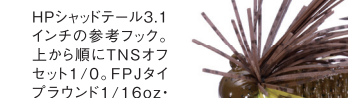
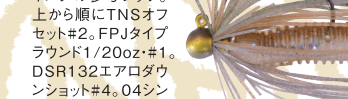


テールを上下逆向きにオフセットフックを装着。水平姿勢を保ち、軽くボディが震えながらフォールする。ぜひ試してみてください

は2.5インチ(スピニングタックル+4lbフロロ)、残り4匹は3.1インチで手にした。2150gのビッグフィッシュはスティーズ・ブラックジャックにアルファス・ベイトフィネスカスタム(KTFチューンド)、ラインはFCスナイパー14lbで、フックはFPPオフセットの1/0。カラーはダークシナモン・ブルーフレックだった(ほかの3匹は水がより濁っているエリアだったため、スカッパノン・ブルーフレックをチョイスした)。

まだまだ使いどころはある 本当にマルチなHPシャッドテール

さらにキャロライナリグやスプリットショットとも相性はよく、ラバージグのトレーラーとしても申し分ない。適度なずんぐりむっくり感とウエイトがあることで、スモラバ系が投げやすくなるだけでなく、スローフォールやスローリトリブ中もテールが小気味よく動いてバスを誘う。加えてロッドワークによる小刻みなシェイキングでもテールがパイブレーションする。この両立もまた、HPシャッドテールならではのよさである。



HPシャッドテール2.5
インチの参考フック。
上から順にTNSオフ
セット#2、FPJタイ
プ라운드1/20oz・#1、
DSR132エアロダ
ウンショット#4、0.4シ
ンク1.2g

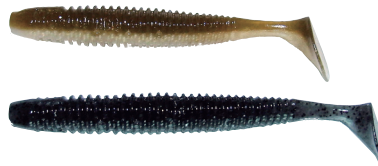
HPシャッドテール3.1
インチの参考フック。
上から順にTNSオフ
セット1/0、FPJタイ
プ라운드1/16oz・
1/0、フィネスガード
#2、0.03ハツ3.5g

最後にお伝えしたい
のが、スピナーベイト
のトレーラーワームと
しての使用法だ。トレ
ラーワームは通常、
スピナーベイトのメイ
ンフックに刺して使う
のが一般的だが、こ
でご紹介したいのはト
レーラーフックにワ
ームを通し刺すとい
うもの。まずはトレ
ラーフックにゴムのス
トッパーを通し、HP
シャッドテールを通
し刺す(このストッ
パーがワームのズレ
を防止)。これをスピ
ナーベイトのメイ
ンフックにストッパ
ー2つで挟み込むよ
うにセット。実は
この方法、O.S.P
プロスタッフの三宅
貴浩君がルアーニ
ュースの動画撮影
時に65cm・5570g
のモンスターをキ
ャッチしたセッ
ティングで、自分
も試したところ非
常にいい手応えを
得ている。要は
ジョイントルアー
のようで、後半部
分(トレーラーワ
ーム部)がよく動
く。通常、スピ
ナーベイトのトレ
ラーはトレーラー
フックとの干渉
を避けるため、
ストレート系や
ピンテール系の
ワームをセット
するものだが、
これだと

トラブルにならず
ナチュラルかつ強
烈にバスを誘っ
てくれる。ただ
巻きはもちろん、
フォール中もし
っかりとバスを
誘い続けるので、
今年はこのセッ
ティングをじっくり
試してみたいと
思う。参考まで
に三宅君はハイ
ピッチャーMAX
の1/2オンス・
TWに3.1イン
チをセットして
いたのだが、ノ
ーマルのハイ
ピッチャーには
2.5インチが
マッチしそうだ。
タフだったとき
はもちろん、未
知なる水域を
釣る際に効率
のいい攻めや
アプローチが
要求される。そ
んなときにHP
シャッドテール
のダウンショ
ットを投入。さ
らに釣り切り
たいときはカ
ラーローテー
ションであつ
たり、アクシ
ョンをよりス
ローにする。も
しくはドライ
ブシュリンプ
による焦らし
系の誘いにス
イッチすること
も。とにかく、
小型ながらも
強いパイブレ
ーションで
抜群の集魚力
を誇るHPシャ
ッドテールは、
タックルボク
スに欠かせな
い存在である
ことは間違い
ない。

今シーズン、じっくり試
してみようと思うセッ
ティング。トレーラー
フックにHOシャ
ッドテールを通し
刺すという使い方だ

現在、開発が進行している3.6インチモデル。
写真上は3.1インチ、下が3.6インチ



現在、開発が進行している3.6インチモデル。
写真上は3.1インチ、下が3.6インチ

SIX EYES

霞ヶ浦に精通する3人のスタッフが極寒期に欠かせないアイテムを紹介

やっぱり外せないハイカット!!



Case of
富村 貴明
Takaaki Tomimura

真冬の霞ヶ浦水系は毎年同じような気温と水温の推移というわけではなく、風の強さや水の濁りなどの状況変化を考えると、なかなか「コレ!」という1アイテムに絞りにくいものです。

冬場は「いるであろう」エリアやストラクチャーの判断はしやすいのですが、その中でもちょっとしたバスのポジション変化に対応するべく、アプローチするリグやアイテムも変えていきたいところです。

そんな中でも、霞ヶ浦水系で本当に厳しいといえる水温3~5℃になる時期でひとつと言えるのは、ソフトベイトによる食わせよりハードベイト(プラグ系)による食わせのほうが確率が上がるという事。

これは自分なりの考え方なのですが、ソフトベイトのような1本のフックを口の中に入れさせる食わせより、プラグのようにルアーに2~3本のトレブルフックがついているほうが、バスの口の周辺でのフックアップの可能性が非常に高くなります。

そんな中での1アイテムとなると、やはりハイカット。しかもSP(サスペンド)ですね。カラーは一番結果を出していて信頼している「黒金Ver.T」がおすすすめ。使い方はとにかくスローに、物にタイトに通すことと、ここぞという所では何度も通したり止めて待つ事も大切です。

ぜひお試しください!!



Case of
納谷 宏康
royasu Naya

ボクが真冬の霞ヶ浦水系で使うタックルは、サスペンドシャッドとメタルパイブの2種類。ハイシーズンはボートデッキに10本以上のタックルが並びますが、この時期は1匹釣れたらラッキー、2匹釣れたら奇跡(笑)。そんな状況なので、あれこれローテーションするより可能性の高いルアーを信じてやり切ることが大切。その中でもボクが一番信頼するルアーがハイカットSPです。ハイカットはこの時期のバスのレンジにピッタリ合うのと、ノンラトルでナチュラルかつ小魚にそっくりなタイトピッチの泳ぎで、霞ヶ浦水系のスレきったバスにも効果抜群です。



使い方は、消波ブロック帯や石積みで、ときどきボトムタッチするようにただ巻きするだけでOK。ボトムにスタックしかけて、外れた瞬間のバイトが多いので、そのとき少しステイさせるのがキモ。動き出しのバイトにも注意です。真冬のバスはルアーを追いかけてまで食いませんから、よさそうな場所には何度も角度を変えながらルアーを通すことも忘れずに!

色は、この時期のバスはワカサギを捕食しているので、絶対にワカサギ系カラーがオススメ。それと濁りがきつとき用にチャート系の「マッドタイガー」も用意しています。みなさんも、ぜひハイカットを信じ、貴重な1匹を狙ってみましょう!



Case of
松村 寛
Hiroshi Matsumura

真冬に限らず霞ヶ浦水系の低水温期の最強ルアーはハイカットDRですね。低水温期のバスは、ハイカットの小さく動きすぎないアクションが大好きなようです。

それと大事なことはバスが食べているもののメインが、ワカサギであるということ。ワカサギには12cm前後の大きくなるタイプのもので、7cm前後のあまり大きくならないもの(この7cmくらいの個体は「チカ」と呼ばれるものもいます)、これを追っているバスにはハイカットがマッチザベイトとなるのです。

カラーは基本的にワカサギを意識して、「潤るワカサギ」などのナチュラル系を使いますが、太陽光の加減からか、「シャンパンゴールドブラック」などの黒金系が圧倒的にいい時もあります。もしも手持ちがない場合は銀系のハイカットを黄色の油性マジックで塗ってしまうこともあるくらいです。なのでナチュラル系、銀金の系統で複数個ボックスに忍ばせておきましょう。それと、もの凄く重宝するのが利根川では定番と言われているナス型おもりにスナップをつけた根がかり回収器。これは自分で簡単に作れるのですが、テトラの隙間に挟まったり、回収棒では届かない深場での根掛かりから何度も助けてくれます。防寒とともに真冬の必須アイテムになりますので、ぜひ用意しておきましょう。



釣りに行くための〇〇

あなたならどうする? どうしてる?

全国のお父さんアングラ1様。釣りに行きたくても、自由に行くこと、**かないませんよ**ね? それは**釣り業界人**として同じ。だから釣りに行く前には**必ず、こんなこと**しているのです……

働き盛りはきちんと仕事を片付けてから!

プロスタッフ 川上記由さんの場合

釣りに行くための……という話題となると、みなさんは奥様やご家族のお話をされますが、ウチの嫁さんは釣りに関しては非常に理解があります。

例えば週末に家にいると「釣りに行かないの?」とか「晴らしに行つて来れば?」など、嫁さんのほうから気を遣つて声を掛けてくれます(決して家で邪魔にされている訳ではありません)。私の場合、問題は家族ではありません。じゃあ、何が問題か……? そう仕事です。

自分は45歳で、世間では俗にいう働き盛りというやつですかね(笑)。仕事から出張なども多く、留守中に社内の仕事が溜まるという悪循環ぶり(汗)。そのため、いかに月々金で仕事を終わらせられるかが大きな問題です。

そう! 釣りはメンタルが重要なスポーツですので、仕事による心配事や気になる事を引きずつていては、いい釣果やスキルアップにつながりません。

だから私の場合、気持ちよく釣りに行くためには、月々金で仕事をキチンと終わらせ、思いっきり週末の釣りを楽し

む事が重要なのです。

そうそう、安心して下さい! 家族のケアもしていますよ(笑)。子供は大きいので手は掛かりませんが、嫁さんのケアはとても大事です。

週末は釣りなので、どのようにな嫁さんのケアをするかと言うと、私の場合は比較的、仕事に余裕のある平日に、外へ飲み連れ出すことです。

外で美味しいものを食べ、お酒を飲みながら愚痴を聞いてあげる。我が家はこれだけで、十分ケアになっているようです。

また、少ない機会が満足してもらおうには、お店をサーチしておく事も重要です。というわけで、お店のブラクティクスも普段からしっかり行っていますよ(笑)。



14年目でも存在感を示す、超個性派シャッド。

O.S.Pが世に放つアイテムとしては、バジnkランク、アシュラO.S.Pに次ぐ3番目。シャッドプラグはよく使われるハードルアーの最たるものであり、それは開発に着手した2002年当時はもちろん、今もお変わらない。

ダンクも先に手掛けた2アイテムと同様に、まずは「他にはないもの」と「競合アイテムを使っているうえでの不満点の解消」という点に重きを置き、開発はスタートした。では、「不満点」とはどんなものがあったのだろうか。

スモールシャッドは当時からいろいろあったが、それらの多くはリップが小さくスナッグレス性能に欠けるため、カバー周辺をタイトに攻めきれない。

また軽くて飛距離が出ないこと。そして水深1.5m前後を守備範囲とするものが多く、深いところを攻められない、という大きく3つの不満点があった。

これらを解消するものというところから開発がスタート。ボディはアシュラO.S.Pと同様のフルフラット形状で決定したものの、最終的なジャッジを下すまでには多くの時間を要した。



「断面が四角形に近い形状にすると、同じ全長、幅、体高の筒型に比べて、中の容積を稼げる。これはサスペンドにしたときに、大きなオモリを入れることができるんですね。それによって飛距離が出やすくなります。加えて、ボディ側面のフラッシングによってバスを呼ぶ性能にも長ける。アシュラO.S.Pの成功例があったので、形状に関してはすぐに決まったんですが…」

問題はこのあと。この形状でいくとスモールシャッドに分類するにはあまりにもボリュームがあり、かといって小さくしすぎてしまうと飛ばなくなる。ウエイトを背負えるだけの容積を稼げながらも、スモールシャッドに分類されるボリューム感。このせめぎあいの解消に時間を要した、と開発担当は語る。

ダンクといえば、スモールシャッドでは他に類を見ない潜行深度が最大の特徴。ロングリップがキャストで最大4mの潜行を可能にするのだが、そのために必要なのが飛距離。これを無理なく飛ばすにはタングステンウエイトの重心移動しかない。しっかり飛び、確実に潜る。そのためのリップの位置や角度を吟味した。



そしてタングステンウエイトの重心移動という点ではアシュラO.S.Pと同様の、障害物などにヒットしても容易にウエイトボールがリアに転動しないストッパー機能のついた、重心移動システムを採用。これで前例のないロングリップにもかかわらず、異論のない飛びを見せてくれた。



「最大潜行深度4mという謳い文句だったのですが、使ってみるとそこまで潜らない、という声も耳にしました。しかし実際には並木のキャスト(スピニングタックル+マシンガンキャスト4.5lb)で30m以上飛ばして引いてくると、確かに4mまで潜りました。これが仮に25mしか引けていないとすると3.2~3.3mしか潜らない。そんなこともあって、リトリブ距離によって最大潜行深度が変わることを知るきっかけになったルアーでもありましたね」

この潜行深度をはじめとして、さまざまなメリットを数値化しアピールするという作業を繰り返した、と開発担当は当時を振り返る。例えばこの潜行深度については、棧橋の3か所にトランスデューサーを設置し、飛距離に応じて調整しながらルアーを通して潜行深度を測定。ほかには同クラスのルアーの飛距離テストや、事前に沈めておいた枯れ枝に向かって20



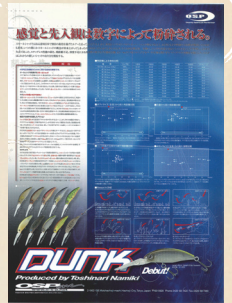
厳寒期の二本柱といえばメタル系とシャッドではないだろうか。今回はその片翼を担うシャッドプラグ、ダンクをご紹介します。世の中に「いい」と称されるルアーは数多あるが、その「よさ」には個人的主観が含まれている場合も多く、あまりにも曖昧。そこでダンクではそれまでのシャッドとあまりにも違いすぎたため、何がどれぐらいいいのかをわかりやすく解説するために可能な限り数値化し同カテゴリーの競合ルアーとの差を明確に打ち出した——

回、ルアーをキャストして引っ掛かった回数をチェックするという作業も行った。また一定区間をそのルアーが持つ最も遅いスピードで引き、通過するのに何秒かかったのかを調査。そこから逆算して1秒間に何メートル進むのかを測定した。

ちなみにダンクはスナッグレス性のテストにおいては20回キャストしたうちクリアした回数は平均14回でクラスナンバーワン。スローリトリブテストでは1秒間に16.5cmを記録。当時、スモールシャッドのカテゴリーで人気を博していたアイテムが1秒間に31cmだったことを考慮すると、ダンクがどれだけスローリトリブ性能に長けたルアーであるかがわかるだろう。

当時、O.S.Pには並木敏成以外に社員が二人しか在籍しておらず、さまざまな業務に追われる中でこれらのテストや調査を行ってきた。決して楽な作業ではなかったが、こうして数値化することでそのルアーの持つよさが伝わるのであれば、その価値はあると信じて疑わなかった。

ダンクはコンパクトボディながらロングリップという異色のシャッドプラグとして誕生したが、いまだにオンリーワンのメリットを持ち、発売から14年が経過した今もお、販売数に大きな変動が生じることなく使われ続けている。ロングリップでありながら、ディープだけじゃない。また根掛かることなく超スローに引ける点は、厳寒期に類まれなる強さを発揮することもまた、競合するシャッドにはない部分。これからもこの「よさ」は色褪せることはないだろう。



ダンクが発売された当時の広告。さまざまなテストや調査によって得た数値的結果を公開し、それまで感覚でしかなかった部分を具体的に示した